

1. 授業の概要(ねらい)

この授業では、主に14世紀から20世紀までを対象として、国と国・地域と地域などの相互の繋がりや影響に主眼を置いて、経済史をより国際的な視点から学びます。その際、必ずしも西ヨーロッパを中心とした国民国家体制を前提とはせず、家族・地域・都市・企業あるいは信仰の異なる集団間での経済活動を視野に入れ、よりグローバルな視点から、ヒト・モノ・カネ・情報の移動を考えていきます。

経済的に一体化した今日の世界をよりよく理解するうえでも、またこれからの地域社会・国際社会・グローバルな社会を見通すうえでも、そのための手がかりとなる歴史的な知識を身に付けます。

2. 授業の到達目標

- ① 経済史とはなにかを説明できる。
- ② 経済的に不均衡な世界の成り立ちを、その歴史的背景から説明できる。
- ③ 過去や歴史を知ること、現在生きている状況を相対化し、複眼的な思考を養う。

3. 成績評価の方法および基準

平常点：出席、授業への積極的な参加、授業内課題(30%)；期末試験(70%)
課題や試験の内容については、授業の様子を見たらうえて判断します。

4. 教科書・参考文献

教科書

※特に指定しない

参考文献

- ケネス・ポメラントフ／スティーヴン・トピック 『グローバル経済の誕生』（筑摩書房、2013年）
 - 金井雄一／中西聡／福澤直樹編 『世界経済の歴史』（名古屋大学出版会、2010年）
 - イマニュエル・ウォーラステイン 『近代世界システム』（名古屋大学出版会、2013年）全4巻
- ※より詳しい参考文献(専門書)については、各回の授業内で指示します。

5. 準備学修の内容

授業で指定する予習箇所必ず目を通すこと。

現在、「グローバル」な視点から書かれた歴史書が、一般向けにも多く刊行されています。書店に立ち寄る機会があれば、ぜひ関連書棚を眺めてみてください。もちろんネット上で閲覧できる書評なども活用してください。

また、普段から、自分を取り囲む生活環境に目を向けて、その歴史的な背景について少しだけ考えてみてください。例えば、なぜ「着物」ではなく「ジーンズにTシャツ」で行動しているのか？そのTシャツ(綿)はどこで作られ、どこで加工されているのか？それはどうしてなのか？・・・など。

6. その他履修上の注意事項

この授業での内容を補完する意味でも、また国際経済史をより深く理解するためにも、「アジア経済史」「西洋経済史」「国際経済論」などを併せて履修することが望ましい。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション
- 【第2回】 歴史学とはなにか、経済史とはなにか
- 【第3回】 授業内課題①
- 【第4回】 暴力の役割①
- 【第5回】 暴力の役割②
- 【第6回】 暴力の役割③
- 【第7回】 授業内課題②
- 【第8回】 制度と慣行①
- 【第9回】 制度と慣行②
- 【第10回】 制度と慣行③
- 【第11回】 授業内課題③
- 【第12回】 工業化のプロセス①
- 【第13回】 工業化のプロセス②
- 【第14回】 工業化のプロセス③
- 【第15回】 まとめと試験